

中部日本選手権県予選を終えて

6月14日に松本運動公園体育館で、中部日本選手権（ジュニアの部）長野県予選会が行われた。この大会は県総体で3年生の引退直後に行われるもので、現1・2年生がどの程度の力を持っているか、全県における次の勢力地図となる大会である。

地元開催であり、中信の学校はほとんど参加しており、もちろん県内の実力校は顔をそろえている大会である。前回では3回戦を突破するのが限界であったが、今回は4回戦に進出した選手が5名ののぼり、次の試合で本大会出場権をかけて試合が始まった。

今年は、大会開催が60回記念大会にあたり、本大会出場枠が従来の倍に当たるベスト32となり、本大会出場が大いに期待される年でもあった。5回戦での展開は、なかなか勝ち星が挙がらず、気をもませたが、結局2名が本大会の出場権を獲得した。

本大会の出場権獲得数は以下のとおり（男子）

松 商	6	県総体上位4校である、松商・長商・下農・松工に続いて、上位に
長 商	5	食い込むことが出来たのは大きな成果である。欲をいえば4名の出場
下 農	3	が得られれば、次の県段階の大会には、いくつものシード枠が得られる
松 工	2	ことにもなった。
深 志	2	本大会は7月24日から愛知県豊田市で行われる。中部日本の範囲
小諸商	2	は、北信越五県（長野・新潟・富山・石川・福井）に加え、愛知・静
屋 代	2	岡・三重・岐阜の9県である。残念ながらこの中で最もレベルの低い
飯 田	1	のが長野県であり、北信越大会でも最下位の状態である。さらに中部
上田東	1	日本となると東海地区の県が、その上をいくので、一層不利な展開に
長 姫	1	なってしまう。しかし上のレベルを知るという点では、大きな経験と
風 越	1	視野が開ける可能性がある。
飯田工	1	中部日本の県予選は、ランキングの対象外の大会であるが、今年の
須坂商	1	県総体の監督者会議で、ランキング対象の大会に検討することになり、
飯山北	1	新人戦までには結論が出ることになる。同時に冬の県ジュニア選手権
日 大	1	大会（東京・大阪選手権選考会）もランキング対象が検討され、これ
伊那北	1	が実施されれば、年間で6つの大会が、県のランキング大会となる。
野沢北	1	現1・2年生の勢力図として、県全体に均等化し、地区による力の

差が少なくなったことが言える。これまで比較的上位の薄かった東信地区が他とほぼ互角の力関係になっており、南信・北信も裾野が広がっている。逆に中信の層が薄くなっており、これから県段階の大会に臨むには、他地区の学校の力関係を十分に把握した上でいかないと、思わぬ所で足下をすくわれかねない。他地区の学校との練習経験がより求められることになる。